

農子

朝寒やウオークしゃきつと背を伸ばす
日当りて皆こちら向く犬ふぐり
手作りの案内板の梅祭り

初江

○春寒し決まらぬ成年後見人
○トリプルクロス見し立春の交差点
ふる里市至る所に犬ふぐり

笛子

○梅ふむむ障子の外が透けている
○苦いから愛しているの露の臺
ももいろを誰が切るのかさくらちる

富江

春寒や搜索へりの一機二機
無人駅線路の脇に犬ふぐり
春夕日一札する娘完走へ

ゆの

○春寒やコンと狐の鳴いたよな
銀河より降って来たのか犬ふぐり
春めいて背骨はピンとなりたがる

美貴

○近道は細道なりし犬ふぐり
春泥にタイヤとられておととつと
詰門の開け放たれて梅見頃

和子

雨やよい動くと見え沖の船
如月の誕生ケーキチーズ系
芽たんぼぼ村の伝言甲高く

まり

曇りては花開かざる犬ふぐり
春寒し着付の小物あまたなり
明け方の夢や春の蚊鳴きにけり

酔花

きらめきて地面をおおう犬ふぐり
春寒し猫の尻尾を陽にあてて
黄砂くる空いっぱい果し状

えり子

○春寒や赤き実赤く揺れてあり
一輪も摘み取らせずや犬ふぐり
うれし野に天の青らし犬ふぐり

夕子

庭石の周り焦がして芝火消ゆ
はばかりず軀もバレンタインの日
妻からも義理チョコバレンタインの日

文子

○春寒や施設に居ると便りある
置き去りの犬の遠吠え春寒し
空真青白梅紅桜色重ね

弘

○春寒や誰にも言えぬことがある
犬ふぐり在所に降りてみたもの
かみ合わぬ話いつまで日脚伸ぶ

丞子

○春立つや歩き初む子の世界地図
犬ふぐり俳句あまたの色褪せず
春寒や認知検査の教習所

美和

○落椿一休みして流れゆく
四万十の水の塩梅青さ海苔
疎開の日雛は車力に乗せられず

瑞枝

スマホ族団欒消えて春寒し
少年のループで覗く犬ふぐり
廃屋の庭に妖精犬ふぐり

郁代

幼児の歩みの一步犬ふぐり
昨日とは違う海風 早春賦
春寒しシャッター通り商店街

道彦

○犬ふぐり水の地球が動きだす
冬寒し黒子ほくろに垂れる白き髭
かぎろいて鳥はついでばむ幻を

味元 昭次 作品

春寒し鍛冶の火消えた吾井郷あいのじょう
早春の鏡腹立つ奴も過ぐ
齢また一つ足して聴く初音かな

